

様式第1号

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第1回生涯学習推進センター運営協議会
開催日時	令和5年10月25日(水) 午後1時30分～2時30分
開催場所	所沢市生涯学習推進センター 301学習室
出席者の氏名	井関義邦、伊藤明芳、川地武、須賀聡、須藤とく子
欠席者の氏名	新井政明
説明者の職・氏名	なし
議題	(1) 委嘱状の交付 (2) 会長、副会長の選出 (3) 生涯学習推進センター事業の進捗状況について (4) 意見交換「それぞれの分野におけるセンターの活用について」 (5) その他
会議資料	・資料1 次第 ・資料2 生涯学習推進センター事業進捗状況 ・資料3 所沢市生涯学習推進センター概要 ・資料4 翔びたつひろば10月号
担当部課名	教育委員会 教育長 中島秀行 教育総務部長：千葉裕之 教育総務部社会教育担当参事兼社会教育課長事務取扱：糟谷苗美 教育総務部文化財保護課長：稲田里織 学校教育課主幹兼健やか輝き支援室長事務取扱：鈴木恵 教育総務部社会教育課生涯学習推進センター 所長：藤巻幸子、主査：平野清人、主事：永友恵悟

様式第 2 号

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>◇社会教育担当参事の司会により開会した。（13：30）</p> <p>◇委嘱状の交付 教育長より委嘱状を交付した。</p> <p>◇教育長あいさつ</p> <p>◇委員自己紹介及び出席職員自己紹介</p> <p>◇正副会長の選出 選出については、互選となっているが委員より「事務局一任」との声があり、会長に伊藤委員、副会長に川地委員を提案したところ満場一致で拍手をもって承認された。</p> <p>◇会長挨拶 会長に就任した伊藤委員から挨拶があり、その後、会長が議事進行にあたった。</p>
議長：会長	<p>会議録の記録方式は要約方式に、確定方法は議長の承認方式とする。 事務局が書記を務める。</p>
	<p>「異議なし」の発言あり</p>
議長：会長	<p>本日、傍聴希望者はいるか。</p>
事務局	<p>1名、希望あり</p>
	<p>傍聴者が入場</p>
議長：会長	<p>◇生涯学習推進センター事業の進捗状況について それではここから議事に入ることとし、はじめに、生涯学習推進センター事業の進捗状況について事務局から説明していただきたい。</p>
事務局	<p>生涯学習推進センターの事業の進捗状況について、資料4に基づき説明。</p>
議長：会長	<p>事務局の説明に質問・意見はあるか。</p>
委員	<p>教育臨床エリアにおいて、就学相談が多いが、教育相談が少ないのはなぜか。</p>
事務局	<p>教育相談は、教育センターや学校教育課でも対応しているため、教育臨床エリアでの件数は少なくなっている。</p>
議長：会長	<p>◇意見交換「それぞれの分野におけるセンターの活用について」 それでは、事務局から意見交換について、趣旨説明をしていただきたい。</p>

事務局	意見交換の趣旨について、事務局より説明。
委員	組織が変わったが、どのように変わったか。また、公民館と社会教育課はどういう関係なのか。
事務局	昨年度までは生涯学習推進センターは「課」だったが、社会教育課に属する「グループ」となった。各地区のまちづくりセンターは公民館でもあり、そのうちの公民館業務を社会教育課が統括している。生涯学習推進センターも公民館も、市民の生涯学習や地域の社会教育を支援する点では共通しており、連携して進めていくために同じ課になった。
委員	社会教育課が事業を行っているのか。また、現在、公民館と生涯学習推進センターの合同の会議はあるのか。
事務局	事業は各公民館や生涯学習推進センターそれぞれで行っている。また公民館長会議に、今年度より生涯学習推進センター所長が出席している。
委員	自習室の利用人数からは試験期間中に学生が来ている様子が伺える。また、官学連携共催セミナーでも大学や専門学校の学生が指導者として来ているのであれば、多様な世代の生涯学習を学生が体感できるきっかけになるのではないかと。そういったところに生涯学習推進の余地が残されていると思う。講座に参加する人数も40名以上おり、安定していると感じた。
委員	高齢者と、子ども両方が出入りする施設という特徴を活かして、一緒になって学べる施設を目指すのはどうか。最近、不登校が社会問題化するなかで、社会人との交流の場があったほうがいい。私の孫も、たまに理由もなく学校を休むことがあるが、よく高齢者の多い施設に行き、元気になって帰ってくる。学校に行けない子の受け皿になるような場所になってほしい。
委員	今は核家族化がすすみ、様々な世代と日常的に関わる子も少ない。しかし、学生が高齢者施設にインターンシップで行ったときに、最初はネガティブなイメージがあったが、実際に行ってみるといい経験になったと言っている学生もいた。多様な世代が交わることは良い機会になるのではないかと。
委員	私は先日、主催講座に参加したが、一方的な講義ではなく、先生が2人いて、対話形式で講座を行っていて、聞いていて面白くもっと広まってもいいと思う。ところで、今の生涯学習推進センターは3つのエリアに分かれているが、これは組織を中心とした分け方であると感じた。高齢者と子どもの学びも、組織を超えた連携が必要である。例えば、子どもが多い臨床と、多くの講座を主催する人材育成の「人」の連携も良いのではないかと。そういったところに生涯学習推進センターの余地が残されていると思う。以前教育臨床エリアで勤務していた時、朝礼がとても勉強になった。各エリアで今日何があるかを知ることによって、生涯学習推進センターの全体の事業が理解できた。内部の連携のみならず、「人」を活用していくためにどうすればいいのか考えていく必要があると思う。

委員	<p>まず連携を行うのであれば、小さな連携から始めることが良い。3つのエリアで共通のテーマを設定し、それに基づいて、事業を実施する。星空フェスティバルがわかりやすい例だが、例えば連携強化月間などを作るのはどうだろうか。そのためには、施設がわかりやすくなる必要がある。</p>
委員	<p>3つのエリアの根底には「人」があると思う。どうしても他のエリアのことは他人事になりがちだが、それを私事にする事で、心のかよった連携を培っていくことが大切だと思う。</p>
議長：会長	<p>その他、事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>次回の会議は2月頃を予定している。次回のテーマは今回の意見をもとに「センターでの連携」について更に深めた話し合いをしたい。</p>
議長：会長	<p>議事が終了したので、進行を事務局にお返しする。</p>
副会長	<p>◇副会長の閉会の挨拶をもって会議を終了した。</p>